

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年3月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社 Human-Effort		
事業所名	グループホーム 自由の樹		
所在地	小樽市最上1丁目36番4号 (電話) 0134-33-0330		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年4月2日

## 【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算14人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	27,000円
敷金	有(35,000円)		暖房費 7,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(2月29日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	2名	要介護2	4名
要介護3	10名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87歳	最低 80歳	最高 95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院、朝里病院、おきつ歯科、野口整形、港南クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後理念について職員全員で話し合っ、分かりやすい言葉で実践可能な理念を作成し、日々のサービスに活かしている。建物のゆったりとした生活空間は、利用者と職員の気持ちに反映し、のびのびと明るく、安心して落ち着いた暮らしが成り立っている。自然に恵まれた環境にあり、四季折々の景観が楽しめ、特に夏は畑や花壇の手入れなど収穫の楽しみもある。職員全員でユニットの枠を越えて日常の挨拶など事業所全体で取り組み、自由な語り合いが自然体でなされ、特に利用者のケアプランに活かされている。なお、居間や廊下の壁面を利用し、利用者本位に工夫した掲示など生活の広がりを目指した取り組みが期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題については、至るところに改善の努力が見られ、ケアの質が向上した。理念の明示、権利義務の明示、口腔内の清潔保持、事故報告の取り組み、市との連携など改善状況は良好である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については支社長、管理者、職員全員で各項目について、事業所独自の取り組みなど再三話し合いをして検討を重ね作成した。現状のさらなる充実を目指して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者家族や、町内会長が出席している。事業所の一方的な報告のみならず、様々な意見交換をし、ケアの質の向上に役立てており、地域住民のグループホームに対する理解が深まった。日常的に住民が事業所を訪ねてくるようになった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所は、毎月家族に「たより」を発行して送っている。意見や苦情を受け入れる箱を設置している。面会時に、管理者及び職員は、気軽に話せるように配慮し、声掛けをしている。遠方の家族には時折電話を掛けている。種々の取り組みを試みて家族の意見を聴く体制づくりに努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事で出席可能な場合は参加をする。敬老の行事に地域の方々を招待している。近隣の保育園や、高等学校と連携をとり、年に数回ふれあいの場を設定し、利用者の楽しみとなっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に職員が話し合っ、地域で利用者が暮らし続けることを含み、分かりやすい理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、自分たちで考え作成した理念をネームプレートの裏面に携帯し、日々の様々な場面で実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の加入は勿論、敬老の行事などに地域の方々を招いたりしている。また、近隣の保育園、高等学校と連携をとり、ふれあいの場を設け、利用者の楽しみとなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については支社長、管理者、職員全員で、各項目について事業所独自の取り組みなど再三話し合い、検討を重ね作成した。現状のさらなる充実を目指して取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム 自由の樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域住民を含めた運営推進会議を開催し、報告のみならず前向きな意見を頂き、ケアの質の向上に反映している。会議以外にも交流が深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と定期的な報告のみならず、日常的に指導を頂き、信頼される事業所作りを目指している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所では利用者の暮らしの様子を写真などで、分かりやすい「たより」を毎月発行し、家族に送っている。さらに、個別に手書きのコメントを担当職員が記載して添付し、家族に喜ばれている。面会時には、詳しく報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見や苦情を受け入れる箱を設置している。また、面会時に管理者や職員は声掛けをしている。遠方の家族とは電話を掛けて話せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの分け隔てを取り除いて、毎朝、職員は挨拶を丁寧に行なっている。ユニット間の職員異動の影響は、ほとんど見られない。また、新しい職員は、あせらないで馴染みになるように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修については、同一法人内のグループホームで研修の機会をもっている。外部で開催される研修の場を最大限活かして、できる限り参加を促し、後日、報告をして職員間で共有し、質の向上に取り組んでいる。また、内部での研修も開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと合同の野外レクリエーションを実施し、地域の方々も参加して楽しい場を体験した。親しいグループホームと日常的に交流をしている。さらに拡げて推進したい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する方には、必ず事業所を見て頂き家族の方と、数回遊びにきて頂くことで馴染みの関係が作られるように配慮している。特に誕生会など楽しい体験をするように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者本位に家族のように話し掛け、一緒に過ごす中で親しみを共有し、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの今までの経験や性格、生き立ちなどを情報収集して、詳しい記録を作成し、本人本位に対応することを検討し実践している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は日常の些細なことも話し合い、利用者がその人らしく暮らせるために、連絡ノートに記載して全職員が共有している。面会時の家族から意見を聞いたり、医師には往診時に意見を頂き、介護計画に反映している。来訪できない家族には、電話で意見を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、ユニットでケア会議を開催し、個人記録に記載している介護計画との関連部分を参考に見直しをしている。急激な状況の変化には即、対応する仕組みになっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、車を所持し、入所の時から退所の引越しまできめ細かくサービスをしている。日常は、通院介助、個人の必要品の買物、希望の外出支援など、利用者と家族の気持ちを優先した支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	固定した一医師の係わりでなく、利用者の希望する馴染みの医師が、月に4名ほどきて、毎週または隔週往診診療を受診している。また、24時間対応の医療機関も確保して利用者の健康管理に努力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に「重度化した場合における対応に係わる指針」を提示して同意を得ている。具体的には状況に応じて利用者、医師、家族と相談する体制になっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居契約時に「個人情報使用同意書」に同意を得、一人ひとりを尊厳してケアをしている。言葉掛けなど、自然体であるが至るところに配慮が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての日課にラジオ体操を企画しているが、あくまでも自由参加で強制はしていない。利用者本位を重点にして入浴や外出など希望にそうように支援している。利用者はのびのびと暮らしている。		

小樽市 グループホーム 自由の樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	明るくゆったりとした食堂で、職員は数名の利用者と食事の準備、配膳、片付けなど協力して作業をし、会話を楽しみつつ食事をしている。可能な限り自分で食べることを見守り支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が望む時間帯、曜日など、可能な限りゆったりした浴室で入浴を支援している。週2～3回程度入浴しているが、状況によっては沐浴や清拭なども行なっている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個性を活かして得意とすることを役割として取り組んでいる。カレンダー日付取替え、洗濯物たたみ、ごみ出し、掃除、ダンボール箱たたみなどを見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は花壇の水やり、洗濯物干し、散歩や畑作業など、利用者の希望にそった支援をしている。事業所前のベンチで道行く学生や地域の方々と声を交わしたり、日常的にかかりわりを持ち楽しみとなっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は日中施錠せず、居間で開閉が把握できるチャイムで外出の確認をしている。職員の注意深い見守りのなか、安全が確保されている。		

小樽市 グループホーム 自由の樹

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に数回消防署の協力を得て避難訓練を日中と夜間（職員2名体制）を想定して実施している。災害時の避難集合場所（市の指定場所）を家族に伝え、さらに近隣世帯の協力が得られるよう声掛けなど、職員は真摯に取り組んでいる。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成と食材購入は専門業者に委託し、カロリー計算などバランスの良い食事を提供している。摂取量や水分量はチェック表により全職員が把握し、レベルに応じた対応をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感のある居間で、利用者は昼寝やお喋りをしたり、ゆったりとした時間を過ごしている。また、一人になれる場所も確保され、さらに季節ごと野外行事などが楽しみとなっている。なお、利用者本位に壁面を活かした掲示物などの取り組みで生活の広がりを期待したい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物を持ち込み、利用者が今までの生活の延長として安心して暮らせるよう配慮している。家族の写真や仏壇など思いおもいにその人らしい居室になっている。		

※    は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。